



脳心血管疾患の予防を目指して、 「生活習慣病改善プログラム」の積極的な活用を

篠山 重威 財団法人日本心臓財団「生活習慣病改善プログラム」中央推進委員、同志社大学生命医科学部教授

生活習慣病は、以前は「成人病」と呼ばれていました。加齢と共に進行してくる病気の早期発見を促進し、その予防を目的としてこの名称が用いられたのです。一方、平成8年に公衆衛生審議会成人病難病対策部会が、「成人病」に代わって「生活習慣病」という名称を提唱したのですが、この言葉の中には国民一人一人が健康を保つために、良き生活習慣を実践する事が重要であるという意味が含まれています。即ち、近年わが国で問題になっている欧米化生活習慣にともなって進行する種々の疾患を個人の努力で改善しこれらを予防する事を強調したものであります。

日本心臓財団が開発した「生活習慣病改善プログラム」は、高血圧、脂質異常症、糖尿病など生活習慣病の危険因子を診療する上に、患者さんとのコミュニケーションを促進し、治療を受ける側のモチベーションを高めて、治療や生活指導が中断することなく続けられることを目的として2008年にスタートしました。その後、2009年1月の高血圧治療ガイドラインの改訂などを反映し、ご要望の多かった「過去の検査値の入力」、「データの訂正」、「テストデータの削除」といった機能を追加し、より使い易いプログラムに改善しました。2009年8月25日現在で、全国448名の先生にご参加いただき、656例の患者さんの指導に活用されています。

このプログラムでは、個々の患者さんについて各ガイドラインに準拠した管理目標値と目標達成の有無や検査値の推移などが表示され、生活習慣に対するアドバイスなども出力できますから、よりきめ細かな患者さんの指導と治療にお役立ていただけるものと思います。また、本プログラムに登録されたデータは、日本人の疫学データとして脳心血管疾患の予防を目指す研究に活用する予定です。

今後、本プログラムにご参加の先生方には、このプログラムの進捗や活用事例などの様々な情報を「LSMPニュース」としてお伝えします。今後とも、本プログラムの積極的な活用をよろしくお願いいたします。

事務局より

事務局によく寄せられる質問と回答を以下にまとめましたので、ご参照ください。

ID とパスワードを入れて「ログイン」を押しても、入力画面が表示されません。

A) お使いの PC がプログラムをブロックする設定になっている可能性があります。画面の上部に「ポップアップがブロックされました・・・」とメッセージが出ている場合は、そのメッセージをクリックして、「このサイトのポップアップを常に許可」を選択してください。この対応で解決しない場合は、Ctrl キーを押しながら「ログイン」を押してみてください。

研究計画書では3ヵ月、半年、1年のデータを集積とありますが、それ以外は使えませんか？

A) 疫学研究では、登録時、3ヵ月、半年、1年のデータを抽出して解析しますが、このタイミング以外でも自由にデータを入力し、患者さんの指導にお役立ていただけます。

過去に遡ってデータを入れられますか？

A) 入力画面の日付を過去の日付に変更して入力すると、過去のデータを記録できます。

参加・症例登録の状況

参加エリア(2009年8月25日現在)

43 都道府県
448 名



参加、症例登録の推移(2009年8月25日現在)

